

区分	No.	グループワークでの意見・発言	戦略	課題としての整理	手法・方法としての整理
課題・不足するもの	5	若者が活躍できる環境を整えるため必要なこと・「若者が安心して働けるような環境をつくる」・「若者が起業しやすいような環境を整備していく」	1-1-2	若者が活躍できる環境が整っていない。若者が起業しやすい環境が整っていない。	若者の起業しやすい地域社会を実現する。
	10	家賃が高い駅前でも若い人が出店してチャレンジできていると、面白いまちとして訴求出来るといったアプローチ	1-1-2	若者がチャレンジできる、しやすいという雰囲気ができていない。	中心市街地での積極的な起業、出店を支援する。
	18	失敗しても再起できる環境や雰囲気が必要それが若い世代が戻ってきたいと思える地域に繋がっていく。周りの空気ですういった人を潰さないような社会にしていける必要がある。	1-1-2	地域社会に若者たちの失敗を容認しにくい雰囲気がある(または、積極的な支援がない。)	地域や行政が若者たちのチャレンジをサポートし、フォローする。
	19	小学生や中学生に向けてパンフレットを配布しても、子どもはチラシをまず見ないので、アプローチをしても響いていないのではないかと。年代を細分化して、アプローチの仕方の工夫が必要	2-1-1	小中学生の地域への愛着につないでいく効果的な取組が不足している。	小中学生の年代に応じて、自分の将来と重ね合わせられるような手法で、地域に対する愛着の醸成に取り組む。
	8	働き方改革によるワークライフバランスを実現し、若い世代も含めて、多くの人に戻って来てもらえるような働きやすい職場が増えてほしい	2-1-3	ワークライフバランスを実現できる働きやすい職場環境が確保されていない(十分ではない)。	ワークライフバランスを実現できる働きやすい職場の確保に取り組む。
	9	移住に向けたステップとしての関係人口ではなく、まちのファンであり、まちのことに当事者意識を持って関わってくれる人を市外に増やしていくことが大事	2-2-3	長野市のファンとして当事者意識を持って関わる人が少ない。(増えていない。増やすことが必要である。)	(出身地として、あるいは二地域居住など)長野市のファンとして当事者意識を持って関わる人を増やすよう取り組む。
	15	シングルマザーの創業支援など、少しターゲットを絞ったもの、大きい声じゃなくて小さな声に絞った政策が実施できれば、それ自体がPRになっていく	3-3-2	シングルマザーに対応できるような手厚い支援(細かなニーズへの対応)ができていない。	シングルマザーへの支援など、より細かくニーズに対応する。
	14	長野市の教育の特徴として信州やまほいくや高原学校などの課外活動で子供たちが豊かな経験を積むことにより生きていくための力が育まれるという部分で、東京との違いが出せる	3-4-1	長野市の保育や教育の中で子供たちに豊かな体験ができることが伝わっていない(アピールできていない)。	長野市の保育や教育の中で子供たちが育つ良さを伝えていく(アピールしていく)。
手段・方法	3	テレワークを進めていくうえで、セキュリティーをもっと確保	1-1-2 3-3-2	テレワークを推進する上でのセキュリティー対策が不十分である。	テレワークを推進するためにセキュリティー対策を高めていく。
	12	「仕事のプラットフォーム構想」仕事の情報が入手しにくい、あるいは、転職が難しいという意識を解消するための、仕事の情報に容易にアクセスできるネットワーク環境を構築	1-3-1	仕事の情報が入手しにくい、あるいは、転職が難しい。	仕事の情報に容易にアクセスできるネットワーク環境を構築する。
	6	生産性を保ちながらも、ニーズに合う多様な働き方が出来ること	1-3-2	働く人たちのニーズに合った働き方ができない。	働く人たちのニーズに合った働き方を実現していく。
	4	小・中学生に対しては、これまでアピールできていない素材や文化を強力に伝えていくことで、長野市の良さを自分の在り方や自尊心に繋げていく	2-1-1	小中学生に地域の愛着や自分の将来につながる地域文化などが伝わっていない。	小中学生に地域の愛着や自分の将来につながるよう、地域文化や資源(資産)を伝えていく。
	1	高校生には直接的なアプローチとして、企業や商売をしている人と直接話をする機会を増やし、働くことや長野で暮らすということを具体的にイメージできる場を多くつくること	2-1-2	高校生が働くことや長野で暮らすということを具体的にイメージできるように直接的なアプローチをする場が少ない。	高校生が働くことや長野で暮らすということを具体的にイメージできるように直接的なアプローチをする場を増やす。
	2	高等教育の分野でICTや芸術などの切り口に特化すると、長野市としての魅力に繋がる	2-1-2	高等教育の分野がICTや芸術などに特化していない(特徴的でない)。	高等教育の分野でICTや芸術などに特化していく(特徴を持たせていく)。
	11	関係人口の創出と長野ならではの暮らしと情報発信という面で、空き家、公共交通機関を活用して関係性を築き、地域の魅力に繋げていく	2-2-新	空き家、公共交通機関を活用した長野ならではの暮らしが十分発信されていない。	空き家、公共交通機関を活用した長野ならではの暮らしを積極的に発信する。
	13	お母さん同志が繋がれるような場づくり	3-3-2	子育てするお母さん同志が繋がれていない。	子育てするお母さん同志をつなぐ取組を進める。
	7	シングルマザーが住みやすいまちになれば、どの人にとっても住みやすいまちになっていく	3-3-2	シングルマザーが住みやすいまちになっていない。	シングルマザーの方も住みやすいと感じられるまちを目指していく。
情報発信	16	様々な人たちが住みやすく、輝ける場所であることが、住民の愛着に繋がっていく		抽象的な表現のため、具体的な課題等の整理対象から除外した。	
	23	長野は都市部に比べると災害が起きた後のリカバリーなども含めて住みやすいのではないかと。災害に対する強みをもっと発信		発信していく情報内容のため、整理対象から除外した。	
	20	経験はその場所でないといけない。長野に来てもらうこと理由として経験が出来るコンテンツがたくさんあることが長野の魅力、良いところ			
	24	長野市は実際に『まち』も『ひと』もちょうどいい。価値観が人それぞれ違う中で、自分で選んで生活できる場所、それが長野市			
	21	子育ての世代に対しては、余暇と仕事のバランスは人それぞれであり、余暇1仕事9の人もいれば、5対5でやりたい人もいるので、「ちょうどよさ」に繋がる部分で、そのバランスを選択できるのが長野市			
戦略のキーワード	17	エリアごとに異なる魅力が活かされていること			
	22	延長の2年間はまさにチャレンジできる2年間であり、スタートアップの位置付けとして、「安心」と「チャレンジ」をキーワードに			
	25	長野市は実際に『まち』も『ひと』もちょうどいい。価値観が人それぞれ違う中で、自分で選んで生活できる場所、それが長野市			